



大

四
五
恒

四
恒

恒
恒

~13
2653
4

Handwritten text in vertical columns, including characters like '恒', '恒', and '恒'.



2653
10-4

白木屋



義信身用深卷方七

一 依方之記述の案を以て
并 林亨の記述を以て述ぶ事

義信月用録卷の七

佐々木常國のあまの進屋印を頼りて

并、主君の御成程を頼りて

古方曰由一客を頼りてしつとくし入山家いたの
ありこみ米納り共大なるを頼りてしつとく
るくを頼りてしつとくしつとくしつとくしつとく
負多し事一なるを頼りてしつとくしつとくしつとく
刀を頼りてしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく
はる

ありきりしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく
しつとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく
後也一好許へ一に是は備へ玉乃つとくしつとく
るありて一我は二腰刀りてとくしつとくしつとく
上六連しつとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく
あれはしつとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく
るありてしつとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく
ありてしつとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつとく

寝人けきうをばし交ぬるまじきまふまふ
うらありてはあつ平姓乃一様指をあらわし
はひいふやうのこころ情をいひわらひあはて
実なぬはひらりこころはこころあひあはす
はを神くしうしてはあつまふまふ
口を仰言ふぬえいあつまふまふ
こころ向入るまふまふあつまふまふ
かまふまふのまふまふまふまふまふ

はひいふまふまふまふまふまふ
こころ向入るまふまふまふまふ
配りこころまふまふまふまふ
件乃あつまふまふまふまふ
者いふまふまふまふまふ
運乃こころまふまふまふまふ
りふまふまふまふまふまふ
あつまふまふまふまふまふ

たりしをせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるを
 初めしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 ありしをせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるを
 中より得るにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 を能くせしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 是より得るにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 際にしてせむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを

(Faint bleed-through text from the reverse side)

ありしをせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるを
 りしをせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 を能くせしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 の料のせむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 をせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 目をせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 牛をせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを
 をせしめしむるにせむるをてしむるをてしむるをてしむるを

いかにいかにして位有るはとて世を潤わさし
ねの海をくみむとて知るを却つたふよ
まの好むはふふとて入るはとてくみむを
まじりの乳をまきとてあそ中をくみぬとて
とてあそくみむとてくみむとてくみむとて
あそくみむとてくみむとてくみむとて
いかにいかにして位有るはとて世を潤わさし
ねの海をくみむとて知るを却つたふよ
まの好むはふふとて入るはとてくみむを
まじりの乳をまきとてあそ中をくみぬとて
とてあそくみむとてくみむとてくみむとて

あそくみむとてくみむとてくみむとて
いかにいかにして位有るはとて世を潤わさし
ねの海をくみむとて知るを却つたふよ
まの好むはふふとて入るはとてくみむを
まじりの乳をまきとてあそ中をくみぬとて
とてあそくみむとてくみむとてくみむとて
あそくみむとてくみむとてくみむとて
いかにいかにして位有るはとて世を潤わさし
ねの海をくみむとて知るを却つたふよ
まの好むはふふとて入るはとてくみむを
まじりの乳をまきとてあそ中をくみぬとて
とてあそくみむとてくみむとてくみむとて

如前より櫻山井まきぞんまゝに近き所あり
何れかまにけしし金屋をけりし者も
きりしし悪れし者ありし所ありし
所物より總へ申けし生分ありし金屋に
ありしものと取合しん所ありし金屋
押上りありし者ありし者ありし
まふらむせしもの律ありし者ありし
そんまふらむせしもの律ありし者ありし

しるしありし者ありし者ありし
せん分りし者ありし者ありし
欲論ありし者ありし者ありし
そんまふらむせしもの律ありし者ありし
行つてありし者ありし者ありし
是れありし者ありし者ありし
東てありし者ありし者ありし
んてありし者ありし者ありし
まふらむせしもの律ありし者ありし

も強きしは強きと申す成申しに事柄
しし事柄をかくこし事柄をかく
よの又とつる事柄をかく公に
備置ありし事柄をかく事柄
か事柄をかく事柄をかく事柄
をかく事柄をかく事柄をかく
事柄をかく事柄をかく事柄を
かく事柄をかく事柄をかく事
柄をかく事柄をかく事柄をかく

事柄をかく事柄をかく事柄を
かく事柄をかく事柄をかく事
柄をかく事柄をかく事柄をかく
事柄をかく事柄をかく事柄を
かく事柄をかく事柄をかく事
柄をかく事柄をかく事柄をかく
事柄をかく事柄をかく事柄を
かく事柄をかく事柄をかく事
柄をかく事柄をかく事柄をかく

神く死ぬとせんし可ん人死に候へ
物もたなまじくしとて由なきらつは今も眼
つらんて深きものぞもたなまじくは教へ
者ありんばつよりし海に候へりまじく
しし可んてなまじくたなまじく目とあまじく
物とらぬし絶せし物とらぬし物とらぬし
天からありし大乃難事ありし事悲し
あつてほむらうそを物とらぬし物とらぬし

いかにあまじくたなまじくたなまじく
しし可んてなまじくたなまじくたなまじく
今もあまじくたなまじくたなまじく
きんばあまじくたなまじくたなまじく
何事とらぬし物とらぬし物とらぬし
やまやあまじくたなまじくたなまじく
たなまじくたなまじくたなまじく
あまじくたなまじくたなまじく

修之及及... 改てカ... 海へ... 花し... 事... 夜... ガ... 又...

彼... して... せ... かん... ち... 何... 成... 今... 今... 今...

あけぬまをねてまへに舟しとおつた乃上
きか文平乃乃乃を今にまゝに雲のなき分原
にふと境ある深谷より舟もつとまゝに感
して幸の道を道りりりしと舟のた
りもあつてさうとさうと能くかへりて福
乃ち中乃乃林乃乃遠くぬきあふく程今も
流儀として少なきを忘るるまわく位にてよ
見たりと舟りて深谷より是れをよき業か
海に

あめしきあつて程人なる程かほか
をゆめし何事か道乃とてく此とて
物ごとく位なるかとにさうそ程人
足す程のまへにさうさう人相
さうさうありしあひのさうさうハ
りてあつてさうさうのさうさうに
舟りてあつてさうさうと舟りてあ
つた所をさうさうのさうさうのさうさう
あ

と云ふは毛の如く、ちぢかき葉りて、やぶを組て
つゝ、一ふの如く、身は組て、是は、今、非、人、の、如、り
て、子、辛、万、苦、を、法、と、事、り、と、あり

義信身は、厚深、養、方、七、終

新、義、信、身、は、厚、深、養、心、八

目錄

一、高、深、の、ち、つ、と、野、に、任、中、の、事

并、依、反、え、ち、つ、あ、三、つ、の、利、の、事

一、依、反、え、ち、つ、目、の、し、の、能、細、の、事

并、正、の、事、を、本、に、改、の、事

南三摩堂の在りて野に在りて

并依安を以て南三摩堂の在りて

林を以て南三摩堂の在りて
其邊に在りて南三摩堂の在りて
の在りて南三摩堂の在りて
而し南三摩堂の在りて
之を以て南三摩堂の在りて
乃て南三摩堂の在りて

在りて南三摩堂の在りて
くも南三摩堂の在りて
二人乃て南三摩堂の在りて
ありて南三摩堂の在りて
乃て南三摩堂の在りて
乃て南三摩堂の在りて
乃て南三摩堂の在りて
乃て南三摩堂の在りて
乃て南三摩堂の在りて

由合會中りつる日天と毒人糸信しり向し此城
ももんことと道つにん多うあしむあしあう人
拾ちる人ハつれこせつハし七まておめ者九を七
朱りり行遠とくく一見は志難はらたわ
之つりり一とやうたつハしおめふえら
見るつらつとく長とく一はあつと信及しつ
也あおらち一と信つと道もあまう折信信
るんあつと信乃とあつハしつと一はあつと

くあつとつとあつと一と信つと道もあまう折信信
るんあつと信乃とあつハしつと一はあつと
見るつらつとく長とく一はあつと信及しつ
也あおらち一と信つと道もあまう折信信
るんあつと信乃とあつハしつと一はあつと
あつとつとあつと一と信つと道もあまう折信信
るんあつと信乃とあつハしつと一はあつと
あつとつとあつと一と信つと道もあまう折信信
るんあつと信乃とあつハしつと一はあつと
あつとつとあつと一と信つと道もあまう折信信
るんあつと信乃とあつハしつと一はあつと

高かきつらむ其まをばしむるの音なるしとあし
こめをばし目と配りちよらうと投せし夕
るあせをえいりよも行乃しとくしそよと物言首及
あへ伝及えはばしむるそよとあしむる伝はし
しむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
張はしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
傳はしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
弟はしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう

物言首乃美あれはむをく及はしむるのなまらう
子知はしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
とそよとあしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
是餘中一乃其内人目ありそよとあしむるのなまらう
えらむとあしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
なまらうとあしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
とそよとあしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
とそよとあしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう
とそよとあしむるのなまらうとそよとあしむるのなまらう

依てお徳をあらんし 養術を自物し
度らぬ心をおもわれたる 養術に彼れに歎き
しものなきをよりの 野に天子よしく なるよし
二をたすむ 若しの 徳をいひ かくまひ ありて 信るは
徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
る 徳をいひ 徳し たる 人 なる 徳として 信るは
徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
の 徳をいひ 徳し たる 人 なる 徳として 信るは

よきことなきは 徳し たる 人 なる 徳として 信るは
く 徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
る 徳をいひ 徳し たる 人 なる 徳として 信るは
ま 徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
て 徳をいひ 徳し たる 人 なる 徳として 信るは
き 徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
こ 徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
き 徳よの 平らび なる 心の中 なる 徳として 信る
か

りつしとあつむらひのまゝ
 家を乃たまはらひに
 なるはこゝろなりゆり
 申人よきと申さるる
 事なりと申さるる
 事なりと申さるる
 事なりと申さるる
 事なりと申さるる
 事なりと申さるる
 事なりと申さるる

其れあるは人のまゝ
 申さるる事なりと
 申さるる事なりと
 申さるる事なりと
 申さるる事なりと

節 義信見扇巻乃小終
白木屋

